

取組事例：流通②

⑧ 木材生産現場の見える化と製材工場とのつながる化

岐阜県郡上地域

- ✓ 木材生産状況の把握や木材輸送・納材数量を管理するシステムを導入し、業務の効率化と需給情報の関係者間での共有を推進

■地域の基本データ

総面積	103,075 ha
森林面積	92,389 ha
民有林面積	90,123 ha
人工林面積	50,492 ha
主要樹種	広葉樹、ヒノキ、スギ



■当該取組の参画者

郡上森林マネジメント協議会、郡上森林組合、地域内林業事業体、岐阜県郡上農林事務所、郡上市

■課題と目的

- ・郡上地域から地域内製材工場への木材供給量は約4割と低く、木材の安定供給が十分にできていない。また、地域内の大型製材工場である長良川木材事業協同組合が年間木材消費量を50,500 m³ (H30) から100,000 m³まで増加させることを目標としており、高まる木材需要に安定的に対応できる木材生産体制や供給体制の構築に取り組む必要があった。

- ・そこで、木材生産状況把握や木材輸送等が電話、FAX等でその都度実施される等、各工程管理等の手間が煩雑な集約化・管理業務について、ICTを活用し効率化するサプライチェーンマネジメントシステム(以下SCMS)構築に向けた取組を行った。

■取組の概要

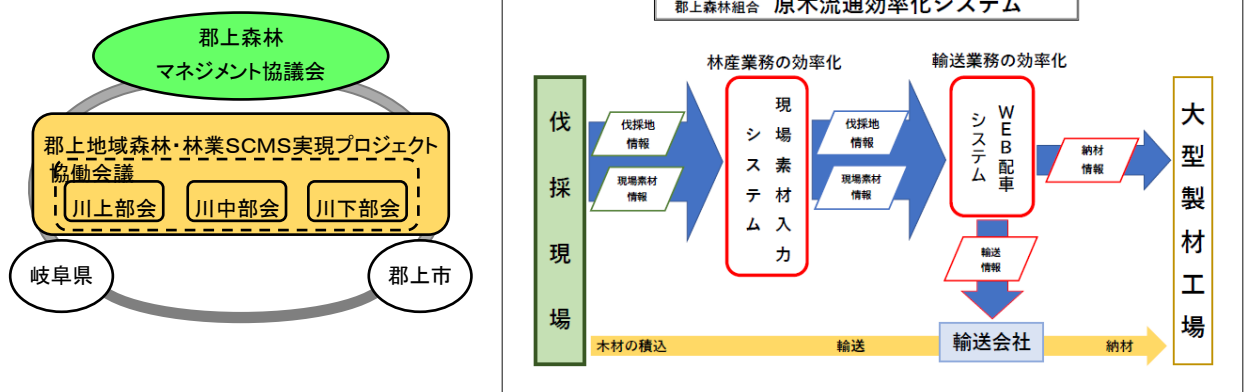
- ・まずは、令和元年度から2年度にかけて、郡上森林マネジメント協議会¹が主体となって「SCMS実現プロジェクト検討会」を開催し、郡上市内の関係事業者47社にアンケート調査を行うとともに、今後の方向性と活動方針等を検討した。
- ・令和3年度には、郡上地域で生産された木材を取りまとめている森林組合と長良川木材事業協同組合との間のシステム販売について、需要の増大に対応するべく、毎日の木材生産状況とその流通を把握する林産業務効率化システムを導入した。



図表 8-1 第1回 SCMS 実現プロジェクト検討会の様子

¹ 平成31年2月に設立された、川上から川下の地域の林業・木材産業等の団体に組織される中立的機関

- ・令和4年度には、木材輸送や納材数量を管理、効率化を図るための Web 配車システムを導入し、業務の効率化や需給情報等の共有を図った。
- ・また、森林組合が運営する木材市場から地域内の小規模製材工場への木材供給の安定化を図るため、木材需給に関する協定を締結し、木材市場と小規模製材工場との需給情報の共有を図った。



図表 8-2 左：取組の推進体制、右：SCMS 概要（資料：郡上市）

取組の成果・効果

- ・木材生産状況を把握する「林産業務効率化システム」を導入したことにより、木材生産現場の見える化が進んだ。
- ・また、木材輸送や納材数量を管理する「Web 配車システム」の導入により、輸送や納材計画、管理に係る業務が軽減されるとともに、森林組合、運送会社、大型製材工場間で随時、情報が共有され、つながる化が進む見込み。
- ・木材市場と小規模製材工場が木材需給協定を締結することにより、小規模な木材取引ではあるが、需給情報が共有され、木材供給の安定化、つながる化が進む見込みとなっている。

素材生産量

H28：103 千 m^3 → R3：117 千 m^3

地域内木材消費量

H28：51 千 m^3 → R3：89 千 m^3

成功要因／横展開のポイントや苦労した点

- ・川上、川中、川下が連携、参画した中立的機関である郡上森林マネジメント協議会を設立し、当協議会を核として SCMS を実現するべく、森林組合や製材工場等の関係者、県、市との協議体制を整備し取り組みを進めた。
- ・当事者による検討等が十分に進まない場合や当事者間の調整が困難な場合、中立的組織による検討や調整により解決を目指す方法も有効であるが、中立的組織職員の経験や能力に依るところも大きい点が、他地域において横展開を図る際に留意が必要と思われる。
- ・なお、当地域では、中間土場の整備も行い、木材流通の効率化を図っている。

■取組の展開

- ・郡上森林マネジメント協議会が求められる役割を果せるようになってきたが、取組をさらに充実するために郡上森林マネジメント協議会に森林マネジメント支援システムを導入し森林資源情報と木材生産現場のつながる化を進める等、引き続き取組を維持拡大していく。

■事業実施にかかった主な費用（H30-R4見込）

SCMS 構築のための協議会活動に対する補助	5,986 千円（うち国費 5,985 千円）
岐阜県林業事業体 ICT 技術等導入支援事業	12,974 千円（うち国費 0 円）